

Vol.26

花で楽しむ季節と暮らし

古くから日本では、園芸だけでなく、茶道や華道でも季節の花々を愛でて楽しんできました。花は、季節の移り変わりを細やかに味わう日本の暦、二十四節気七十二候とも深いつながりがあります。

今回は、半夏生^{はんげしょう}や木槿^{むくげ}、蛍袋^{ほたるぶくろ}など梅雨に咲き始める花を通じて受け継がれてきた草木の由来や先人の知恵とともに、日々の暮らしでの季節の楽しみ方をご紹介します。



花入：鶴首籠／花：金梅草、矢筈芒、河原撫子



花入：煤竹一重切／花：源平下野、蛍袋



花入：観世水／花：桔梗、半夏生、唐糸草、草連玉、苧萱

日時

2022年6月16日(木)
18:30~20:00

会場

文京区立肥後細川庭園 松聲閣
(文京区目白台1-1-22)

参加費

【会場】3,000円(抹茶+和菓子付)
【オンライン】1,000円

定員

【会場】20名
【オンライン】100名

申込方法

【会場参加】メールかお電話で①氏名、②参加人数、③メールアドレス、④電話番号を下記までお申し込み下さい。
【オンライン参加】ホームページをご確認の上、お申込ください。

講師



岩田宗珰 氏

東茶古典セミナー主宰
宗徧流正伝庵 家元
一般社団法人東池坊家元後継

プロフィール

國學院大学卒業。茶道華道の指導をしながら各地のカルチャーセンターで茶花教室を30年開講し、茶花の普及と指導者育成に当たっている。